

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (有) 千華
(ユニット名) グループホーム鶴と亀 1号館

所在地 (県・市町村名) 鹿児島県熊毛郡上屋久町小瀬田849-18

記入者名 (管理者) 時 美利子

記入日 平成 19 年 5 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
■	地域密着型サービスとしての理念			
	1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で利用者のニーズや事業所の変化によって理念を作りあげるよう努めている。		
	2 理念の共有と日々の取り組み	毎日、朝礼時に理念を音読する。理念に基づく運営方針を具体的に話し、共有化を図るとともに理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	鶴亀新聞を通して利用者の直筆で理念を書き、ご家族・地域関係機関等に発行することにより理念の浸透を図っている。	
2. 地域との支えあい				
■	隣近所とのつきあい			
	4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、四季の作物を持って来て下さる方もおられます。又暇をみてお話し相手に来られる方もいる。		
5	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、花火大会等に利用者とともに参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。また人材育成の貢献として実習の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え外部評価の結果は、ケース会議等で報告し改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し合い現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者にたいして、グループホームのあり方を理解し、支援してもらえるような働きかけを行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は随時、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結び付けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加しケース会議等で高齢者虐待防止法に関する勉強会を実施し全職員が周知徹底を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケアに関する考えや取り組みを説明。又利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、御家族と話し合い対応方針を決め、納得を得た上で手続きを進めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が来られ、利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考になっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、職員の手書きによる写真入り、現状報告書で利用者の暮らしぶりをお知らせしたり、ご家族の訪問時に日頃の生活ぶりを詳細に伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族がいつでも利用出来るように第三者苦情相談員を立てて御家族等から得られた意見等をケース会議で話し合い反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談を月1回行い、職員の要望を聞くとともに、日頃からコミュニケーションを図り、意見を反映させるよう心がけてサービスの質の向上につなげている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるようなスタッフをそろえローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟な体制がとれている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合も、引き継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成のため研修会には極力参加を志み、同じスタッフだけではなく、輪番制で参加し、参加したスタッフは必ず参加出来なかったスタッフに伝受する。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が少ない為、充分なことは出来ないが、相互訪問、意見の交流等を通じてサービスの質の向上に励んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス発散、全身運動を含め一週間に一回体育館を借りてバレーボールの練習や、個々にゴルフ等を行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者及びスタッフ全員の勤務状況を把握し、楽しく働ける職場作りに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があったときは、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の困っている事、不安等を理解しどのような対応が出来るか話し合い、サービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案、必要なサービスにつなげるように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族が事業所を見学してもらうことから始め、食事を一緒にされたり、行事・レクリエーションに交わったりしていただき安心感を持ってもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しながら、本人の思いや不安・喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は御家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出・外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院等にお連れしている。馴染みの友人の家に遊びにお連れしたり、TELをかけて来ていただいたり、継続的な交流がげきよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方も行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るように心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでの把握及び、日々の日常生活の中でそれぞれの入居者の希望を聞き対応できるものについては出来るだけ対応している。(入浴などは曜日を決めず本人が希望すれば毎日入浴できる体制)		入所されてから、まだ一度も自宅及びご家族宅への外泊が出来ていない入居者に対してご家族との連絡調整を行いながら、外泊を実現させていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後も入居者との会話時やご家族の面会時に聞きとり及び情報交換を行っている。		現状を維持しつつご家族との情報交換を密にし、入居者との会話の時間を多く持つ様にしていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や個人記録、及び毎日の健康チェックの実施等で把握を行っている。		主治医及び看護師との定期的な情報交換。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び御家族の意向や希望を聞きとり、又担当スタッフにチェック表の把握を求め、これらを考慮しながらプラン作成を行っている。		ケアマネジャーだけが作成するのではなく、ケアマネと、担当スタッフとで話し合いの場を持ちながら、プランを作成していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者やご家族の意向や希望を聞き、現状と照らし合わせて、プランの原案を作成した上で本人・御家族に説明し、承諾を得ている。		認知症の入居者から希望を聞くことは難しいが、極力本人の発する意向や希望をくみ取っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や業務日誌・連絡帳などで情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、通院や空き部屋を利用したショートステイの送迎等、必要な支援は柔軟に対応し馴染みの関係を作る様努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防訓練、民生委員との交流・小中学生の体験学習などの受け入れを行いながら日々の支援を行っている。		地域のボランティアとの繋がりを、密にして行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、入居者より他サービスの利用希望が上がっていない。		当施設で提供困難と思われるサービスについて、利用者よりの希望があれば検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	個別の入居者の困難事例について、相談を行い協同で問題解決に当たる様に努めている。(在宅復帰や他施設への入居について)		今後も利用者や御家族の相談に応じながら包括との連携を図っていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の外、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう御家族と協力して通院介助を行ったりの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	屋久島には認知症専門医がいない。協力医療機関の主治医が職員や御家族の話聞き、日常の利用者の姿を通して適切な指示や助言をして頂いています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、協力医療機関に連絡し確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報提供を医療機関に出し、職員が頻回に見舞うようにしている。又、ご家族とも情報交換をしながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的、健康診断で医師・ご家族との連携をとり、重度化した場合、全員で方針を検討し、最終的にはご家族に決めてもらう。		本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えられるよう、かかりつけ医と共にチーム支援を検討中である。		本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やサービス提供者が十分な話し合いのもとで、情報交換を行いダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケース会議や申し送りの際に職員の意思向上を図るとともに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	<p>尊厳の尊重は当グループホームの絶対的目標である。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声をかけ意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり本人が決める場面も作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩・農作業等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて支援し、又行事等は化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの理美容院や協力で来園してもらったり希望に合わせて職員が支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と探ってきたつわぶき、近隣から頂いた食材を使って一緒に調理し、盛り付け片付け等も利用者と共にいき職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、利用者の様子や時間を見ながらそれらを楽しめるように支援している。(たばこ・ライターは職員が預かり本人の希望にそって換気の良い場所で吸えるように配慮している。)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを配慮してトイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて時間や回数など自由に入浴が出来るよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けないときには添い寝をしたり暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりをし、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事作り、裁縫、梅酒作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。(最近では5月5日のちまき作り)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも買い物時のお金などは自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。本人に管理能力があればご家族からの預かっている1万以下のお金は所持させている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、あるいはドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、計画を立てて職員の勤務を調節する等しながら支援する。又ご家族の協力を依頼することもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を行い利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは決めておらずご家族、知人等の訪問者が気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修等に参加し、ケース会議、申し送り等で勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出られるときは止めるのではなく、声をかけ一緒に行動したり問題がある場合は一緒について安全面への配慮を行っている。(楽しい運動、散歩の時間となるよう努めている。)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、利用者の状況を把握するよう努めている。夜間の休息は居室が見通せる廊下のソファで休むなど24時間利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、注意の必要な物品は事務所に保管管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成し職員も内容をよく理解している。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っているが、万が一の事故が発生した場合にはすみやかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、ご家族への説明等報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員の周知徹底図っている。消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を行い、消防署の協力を得て心肺蘇生法・避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を定期的に行って地域住民の参加の拡大をおこなっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みを御家族に説明し、理解を得られるように努めています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しの変化等に気付いたことがあれば、直ちに管理者に報告すると共に、職員間で共有し状況により医療受診に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋をケースに貼り、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、きちんと服用できるかの確認をしている。(薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは協力医療機関との連携を図れるようにしている。)		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れたり、散歩や運動を行い自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア、食後の歯磨きに職員が誘導、介助する。口腔内異常の場合は即歯科受診を行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録チェック表に毎日の食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。又、食事内容に関しては定期的に栄養士のアドバイスを受けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成学習して、全職員が周知している。感染に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応を行い予防対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は1週間に1回除菌・清掃し、包丁・まな板も保存している。買い物は2日に1回行うが、新鮮で安全な食材を使用するため、なるべく買いだめをしないようにして毎日、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りできるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には菜園畑も作り、玄関先の入り口に鶴亀の像が置いてあり、違和感や威圧感を感じさせず、利用者や御家族、近隣の人が入りやすいように工夫しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に家庭的な暖かい雰囲気を感じると来客者に喜ばれている。ソファや畳の腰掛けがあり、冬期間にはコタツを囲み飲み物や談笑の「場」が用意されている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも玄関前にベンチを設置し、ホーム内では畳の部屋にコタツを設け、廊下の窓側にソファを置いたり、それぞれ利用者が思い思いに活用されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は各自の物を使用。タンス、座椅子等なるべく使い慣れた物を持ち込んでご家族と相談し生活空間作りを考え、協力を求めているが本人がご家族の持込を嫌がっているので今ひとつ対応が必要。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が常に温度湿度をチェックしながら、利用者の状況に合わせて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、浴室、トイレ等がバリアフリーで手すりを必要な箇所に設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口にはご本人の顔写真、ネームが掛けてあります。夜間でもトイレに迷わないように配慮し、目印の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の畑や庭(芝生のグラウンド)ベランダ等で植木の手入れや水あげを行えたり、洗濯物干しや日向ぼっこができ、芝生のグラウンドではグラウンドゴルフ、5月20日には運動会を開催したりして活かしています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・職員は全て家族であるという事をモットーとし、目上の人に対する、言葉使い、礼儀等、若いスタッフにも家庭・学校でおそわらなかった修身教育等、利用者を通して学び教育に力を入れている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (有) 千華
(ユニット名) グループホーム鶴と亀 2号館

所在地 (県・市町村名) 鹿児島県熊毛郡上屋久町小瀬田849-18

記入者名 (管理者) 時 美利子

記入日 平成 19 年 5 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
■	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流の下で利用者のニーズや事業所の変化によって理念を作りあげるよう努めている。		
■	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝礼時に理念を音読する。理念に基づく運営方針を具体的に話し、共有化を図るとともに理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
■	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	鶴亀新聞を通して利用者の直筆で理念を書き、ご家族・地域関係機関等に発行することにより理念の浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい				
■	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、四季の作物の差し入れを持って来て下さる方もおられます。又暇をみてお話し相手に来られる方もいる。		
■	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、花火大会等に利用者とともに参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて地域の様々な研修・会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。また人材育成の貢献として実習の受け入れもやっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え外部評価の結果は、ケース会議等で報告し改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し合い現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうようにしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者にたいして、グループホームのあり方を理解し、支援してもらえるような働きかけを行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は随時、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結び付けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加し、ケース会議等で高齢者虐待防止法に関する勉強会を実施し全職員が周知徹底を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には事業所のケアに関する考えや取り組みを説明。又利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、御家族と話し合い対応方針を決め、納得を得た上で手続きを進めていく。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員が来られ、利用者の相談にのって頂いている。利用者の立場に立った意見を頂き、運営の参考になっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、職員の手書きによる写真入り現状報告書で利用者の暮らしぶりをお知らせしたり、御家族の訪問時に日頃の生活ぶりを詳細に伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族がいつでも利用出来るように第三者苦情相談員を立てて御家族等から得られた意見等をケース会議で話し合い反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個人面談を月1回行い、職員の要望を聞くとともに、日頃からコミュニケーションを図り、意見を反映させるよう心がけている質の向上につなげている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の自由な暮らしを出来る限り支えられるようなスタッフをそろえローテーションを組んでいる。また、その都度必要に応じて、柔軟な体制がとれている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。異動や離職がやむを得ない場合も、引き継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成のため研修会には極力参加を志み、同じスタッフだけではなく、輪番制で参加し、参加したスタッフは必ず参加出来なかったスタッフに伝受する。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が少ない為、充分なことは出来ないが、相互訪問、意見の交流等を通じてサービスの質の向上に励んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス発散、全身運動を含め一週間に一回体育館を借りてバレーボールの練習や、個々にゴルフ等を行っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者及びスタッフ全員の勤務状況を把握し、楽しく働ける職場作りに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があったときは、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の困っている事、不安等を理解しどのような対応が出来るか話し合い、サービスの利用状況などこれまでの経緯についてゆっくり聞くように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時本人やご家族の思いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行い、改善に向けた支援の提案、必要なサービスにつなげるように努めている。		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	本人や御家族が事業所を見学してもらうことから始め、食事を一緒にされたり、行事・レクリエーションに交わったりしていただき安心感を持ってもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しながら、本人の思いや不安・喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。		
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員はご家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気付きの情報の共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝えている。		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	ご家族・本人の思いや状況を見極めながら、外出・外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている。		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	昔から利用している美容院等にお連れしている。馴染みの友人の家に遊びにお連れしたり、TELをかけて来ていただいたり継続的な交流ができるよう勤めている。		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方も行事に招待したり、遊びに来てもらうなど継続的な付き合いが出来るように心がけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントでの把握及び、日々の日常生活の中でそれぞれの入居者の希望を聞き対応できるものについては出来るだけ対応している。(入浴などは曜日を決めず本人が希望すれば毎日入浴できる体制)		入所されてから、まだ一度も自宅及び御家族宅への外泊が出来ていない入居者に対してご家族との連絡調整を行いながら、外泊を実現させていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや入居後も入居者との会話時やご家族の面会時に聞きとり及び情報交換を行っている。		現状を維持しつつご家族との情報交換を密にし、入居者との会話の時間を多く持つ様にしていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録や個人記録での記録、及び毎日の健康チェックの実施等で把握を行っている。		主治医及び看護師との定期的な情報交換。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及びご家族の意向や希望を聞きとり、又担当スタッフにチェック表の把握を求め、これらを考慮しながらプラン作成を行っている。		ケアマネジャーだけが作成するのではなく、ケアマネと、担当スタッフとで話し合いの場を持ちながら、プランを作成していきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者やご家族の意向や希望を聞き、現状と照らし合わせて、プランの原案を作成した上で本人・ご家族に説明し、承諾を得ている。		認知症の入居者から希望を聞くことは難しいが、極力本人の発する意向や希望をくみ取っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や業務日誌・連絡帳などで情報の共有を図り、実践や介護計画の見直しに繋げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じて、通院や空き部屋を利用したショートステイの送迎等、必要な支援は柔軟に対応し馴染みの関係を作る様努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的な消防訓練、民生委員との交流・小中学生の体験学習などの受け入れを行いながら日々の支援を行っている。		地域のボランティアとの繋がりを、密にして行きたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の所、入居者より他サービスの利用希望が上がっていない。		当施設で提供困難と思われるサービスについて、利用者よりの希望があれば検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	個別の入居者の困難事例について、相談を行い協同で問題解決に当たる様に努めている。(在宅復帰や他施設への入居について)		今後も利用者やご家族の相談に応じながら包括との連携を図っていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族と協力して通院介助を行ったりの支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	屋久島には認知症専門医がいない。協力医療機関の主治医が職員やご家族の話を聞き、日常の利用者の姿を通して適切な指示や助言をして頂いています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間帯は、協力医療機関に連絡し確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人への支援方法に関する情報提供を医療機関に出し、職員が頻回に見舞うようにしている。又、ご家族とも情報交換をしながら回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的、健康診断で医師・ご家族との連携をとり、重度化した場合、全員で方針を検討し、最終的にはご家族に決めてもらう。		本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を迎えられるよう、かかりつけ医と共にチーム支援を検討中である。		本人やご家族の意向を踏まえ、医師・職員が連絡をとり安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族やサービス提供者が十分な話し合いのもとで、情報交換を行いダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケース会議や申し送りの際に職員の意思向上を図るとともに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	<p>尊厳の尊重は当グループホームの絶対的目標である。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声をかけ意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり本人が決める場面も作っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩・農作業等一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせて支援し、又行事等は化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの理美容院や協力で来園してもらったり希望に合わせて職員が支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と探ってきたつわぶき、近隣から頂いた食材を使って一緒に調理し、盛り付け片付け等も利用者と共にいき職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、利用者の様子や時間を見ながらそれらを楽しめるように支援している。(たばこ・ライターは職員が預かり本人の希望にそって換気の良い場所で吸えるように配慮している。)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを配慮してトイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて時間や回数など自由に入浴が出来るよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けないときには添い寝をしたり暖かい飲み物を飲みながらおしゃべりをし、一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息がとれるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、食事作り、裁縫、梅酒作り等、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。(5月5日のちまき作り)		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも買い物時のお金などは自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		本人の管理能力があればご家族からの預かっている1万円以下のお金は所持させている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、利用者の希望に応じて季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、あるいはドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、計画を立てて職員の勤務を調節する等しながら支援する。又御家族の協力を依頼することもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援を行い利用者の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは決めておらずご家族、知人等の訪問者が気軽に訪問しやすい雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修等に参加し、ケース会議、申し送り等で勉強会を実施し職員の共有認識を図っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出られるときは止めるのではなく、声をかけ一緒に行動したり問題がある場合は一緒について安全面への配慮を行っている。(楽しい運動、散歩の時間となるよう努めている。)		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、利用者の状況を把握するよう努めている。夜間の休息は居室が見通せる廊下のソファで休むなど24時間利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、注意の必要な物品は事務所に保管管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルを作成し職員も内容をよく理解している。日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っているが、万が一の事故が発生した場合にはすみやかに事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明等報告を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員の周知徹底図っている。消防署の協力を得て救急手当てや蘇生術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を行い、消防署の協力を得て心肺蘇生法・避難経路の確認、消火器の使い方など訓練を定期的に行って地域住民の参加の拡大をおこなっている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由な暮らしの大切さと事業所の取り組みをご家族に説明し、理解を得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しの変化等に気付いたことがあれば、直ちに管理者に報告すると共に、職員間で共有し状況により医療受診に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋をケースに貼り、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、きちんと服用できるかの確認をしている。(薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは協力医療機関との連携を図れるようにしている。)		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れたり、散歩や運動を行い自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア、食後の歯磨きに職員が誘導、介助する。口腔内異常の場合は即歯科受診を行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録チェック表に毎日の食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。又、食事内容に関しては定期的に栄養士のアドバイスを受けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成学習して、全職員が周知している。感染に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応を行い予防対策に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は1週間に1回除菌・清掃し、包丁・まな板も保存している。買い物は2日に1回行うが、新鮮で安全な食材を使用するため、なるべく買いだめをしないようにして毎日、食材の残りは鮮度や状態を確認し冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲には菜園畑も作り、玄関先の入り口に鶴亀の像が置いてあり、違和感や威圧感を感じさせず、利用者や御家族、近隣の人が入りやすいように工夫しています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に家庭的な暖かい雰囲気を感じると来客者に喜ばれている。ソファや畳の腰掛けがあり、冬期間にはコタツを囲み飲み物や談笑の「場」が用意されている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも玄関前にベンチを設置し、ホーム内では畳の部屋にコタツを設け、廊下の窓側にソファを置いたり、それぞれ利用者が思い思いに活用されている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具は各自の物を使用。タンス、座椅子等なるべく使い慣れた物を持ち込んでご家族と相談し生活空間作りを考え、協力を求めているが本人が御家族の持込を嫌がっているので今ひとつ対応が必要。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に換気扇が設置されている。職員が常に温度湿度をチェックしながら、利用者の状況に合わせて調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、浴室、トイレ等がバリアフリーで手すりを必要な箇所に設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には御本人の顔写真、ネームが掛けてあります。夜間でもトイレに迷わないように配慮し、目印の工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先の畑や庭(芝生のグランド)ベランダ等で植木の手入れや水あげを行えたり、洗濯物干しや日向ぼっこができ、芝生のグランドではグランドゴルフ、5月20日には運動会を開催したりして活かしています。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者・職員は全て家族であるという事をモットーとし、目上の人に対する、言葉使い、礼儀等、若いスタッフにも家庭・学校でおそわらなかった修身教育等、利用者を通して学び教育に力を入れている。